

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像(確かな学び)自分の考えを伝え合い、学びを深め、その知識を活用することができる子(豊かな心)互いに認め合い、協力し合う子(健やかな体)自他の体を大切に、健やかでたくましい子

堺市立西百舌鳥小学校  
校長 藤井 良江

令和8年度 重点目標  
「確かな学び 豊かなつながり 高め合う集団」  
①「学びのコンパス」に基づく授業改善・ICT活用の推進②人権教育の推進・道徳教育の充実 ③体力向上に向けた取組の充実・年間を通しての体力づくり ④学校群や幼保小連携の充実

確かな学びの現状  
・昨年度から研修テーマを『自ら問いをもち、読みを深めることができるこどもの育成』として、国語科の物語文の指導を通して、児童の主体的・対話的で深い学びが実現する授業づくりを行っている。  
・令和7年度すくすくウォッチや全国学力学習状況調査では、国語科における知識及び技能、思考力・判断力・表現力等が大阪府平均、全国平均の3～7%下回っており、課題が多岐にわたった。そこで、昨年度より推進している国語科の研究を継続し、令和8年度も「学びのコンパス」の考え方に基づく授業改善の研修に取り組み、こどもたちの総合的な学力を高めていきたい。

豊かな心・健やかな体  
・支援学校の近くという立地の利点を活かし、交流活動を活発に行い、障がいに対する理解を進めている。  
・昨年度の学校教育アンケートでは、「友だちに嫌なことをしたり言ったりしていない」が86%、「進んであいさつをしている」が83.6%の肯定回答があった。  
・昨年度の新体力テストでは、堺市平均を上回っている種目や平均に近い結果の種目も多かったが、特に柔軟性と持久力に課題があった。年間を通して体を動かす機会を増やし、なわとび等を通して体力向上に取り組んでいく必要がある。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～〇月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	「学びのコンパス」の考え方に基づく授業改善を行い、総合的な学力を育成する。	●国語科の授業において、児童自らが問いをもって学びを進め、読み深めることができる授業実践を行う。	「国語の授業で、自分の問いをもち、取り組んでいる」で肯定回答80%以上	学校教育アンケート	年度末			
				研究授業等議会などの校内研修や年度末の総括において判断する。	実施状況	年度末			
確かな学び	自ら学ぶ姿勢	個別最適な学びの充実を図り、主体的に学ぶ児童を育成する。	★発達段階に応じて、進んで家庭学習に取り組む態度を養う。	「自主学習に進んで取り組んでいる」で肯定回答75%以上	学校教育アンケート	年度末			
			ICT活用を習慣化し、日常的な活用を促進する。	「児童用タブレットは自分たちの学習に役立っている」で肯定回答85%以上	学校教育アンケート	年度末			
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	人権尊重を基盤とした教育を充実させ、豊かな人間性を育成する。	支援学校との交流を通して、障がいのある人や様々な人と協力しようとする態度を養う。	発達段階に応じた交流等の実施	実施状況	年度末			
			●豊かな人権感覚を養う人権教育や「いじめ防止授業」等に取り組む、安心・安全な集団作りを推進する。	「友だちに嫌なことをしたり言ったりしていない」で肯定回答90%以上	学校教育アンケート	年度末			
		あいさつ運動や児童会での啓発活動を実施し、自分からあいさつできる児童を育成する。	「進んであいさつをしている」で肯定回答85%以上	学校教育アンケート	年度末				
	体力向上	運動に親しみ、運動することの楽しさを感じ、体力を向上させる。	基本的な体力向上をめざし、こどもたちが運動の楽しさを感じ取ることができるような体育授業の改善・充実を図る。また、カードや動画等を活用することで、年間を通して体を動かす機会を増やす。	「体育の時間や休み時間等に進んで体を動かしている」で肯定回答85%以上	学校教育アンケート	年度末			
地域協働	開かれた学校	教育活動の積極的な発信に努め、開かれた学校づくりをめざす。	学校ホームページや校報、保健だより等を活用し、教育活動の発信に努める。また、tetoruを積極的に活用し、情報を発信する。	学校ホームページを毎日更新、校報、保健だよりの毎月発行	実施状況	年度末			

校長より(年度末)

学校関係者評価者から(年度末)